

アジア大都市ネットワーク 21

「中小型ジェット旅客機の開発促進」第7回共同事業別会議のまとめ

アジア大都市ネットワーク 21における中小型ジェット旅客機の開発促進プロジェクトの目的は、アジアの航空機産業の発展に寄与し、アジアのアイデンティティをより強固なものにするため、アジアの技術と能力を活かした中小型ジェット旅客機の開発・製造と就航を促進することである。

本プロジェクトでは、2002年10月に「アジア旅客機フォーラム」を開催して以来、毎年国際会議を開催し※、議論を深めてきた。

※ 2003年は台北、2004年はクアラルンプール、2005年はジャカルタ、2006年はシンガポールで開催。2007年は第2回アジア旅客機フォーラムとして東京で開催。

このたび、アジアの中でも特に航空需要の伸びが著しいインドの航空機産業の中心地であるバンガロールにおいて、インド国立航空宇宙研究所（NAL）と東京都の共催により、第7回共同事業別会議を開催した。

今回の会議には、共同事業参加都市だけでなく、インドと日本を中心に、航空機メーカー、商社、エアライン、研究機関等、過去最大の約100名が参加した。

会議初日は、「中小型ジェット旅客機の開発促進」検討委員会中橋和博座長（東北大学教授）による講演に続き、日本側からは今年の春に事業化決定に至った三菱リージョナルジェット（MRJ）の開発状況の紹介、C-X（次期輸送機）、XP-1（次期固定翼哨戒機）の民間転用、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の航空関連の活動について、インド側からはNALの活動、インドのRTA（リージョナル機）開発計画、南インドの航空機産業等についてのプレゼンテーションが行われた。

続いて、インドのIT技術を活用したエンジニアリングサービス産業及びインド航空宇宙技術産業会によるインドの中小企業についての報告があった。

なお、会議二日目はインフォシステクノロジーズ、HAL（ヒンドゥスタン・エアロノティクスリミティッド）及びNALを視察した。

今回の会議では、本共同事業のこれまでの成果を確認した上で、旅客機の開発・製造におけるアジアの連携の重要性についての認識を各参加者が共有することができた。特にYS-11以来の日本の国産旅客機として開発が進められているMRJの最新情報を紹介するとともに、航空機製造におけるアジアの連携の可能性などについても話し合われた。また、航空機用新素材開発の研究を通じた首都大学東京と東京都によるアジア人材育成について紹介があり、各国参加者の高い関心を集めた。

今後も、今回の会議の成果を活かして、アジアの連携を強化し、技術力を高め、アジアが自ら開発・製造した旅客機で広くアジアの諸都市を結ぶ気運を醸成していく。